

## 全国 ESD・SDGs 自治体会議の意義と今後の展望

### ～教育委員会として感じたこと～

宮城県気仙沼市教育委員会 副参事（指導主事）小野寺 裕史

この会議に参加し、改めて実感したことは、ESD と SDGs は、1 つの組となって大きな成果につながるということである。本会議が、「ESD・SDGs 自治体会議」という名称であるということからも、そのことを強く感じている。

SDGs の達成には、教育が欠かせないものであり、その果たす役割が非常に大きいと考えている。本市は、ESD を教育の中核に置き、委員会が主体となり、15 年以上前から ESD に取り組んできた。当初、本市 ESD は学校教育が中心であり、学校教育の現場が中心になって ESD を推進してきた。その過程で、ESD の充実を図るために、公民館等の社会教育関係者との連携の重要性が認識され、学校教育の活動を支える地域団体や企業、行政なども加わり、現在の気仙沼 ESD の推進体制がとられるようになった。こうした本市の ESD 推進の背景からも、ESD・SDGs 全国自治体会議に参加することは、今後の進め方を考えるうえで大事なことと考える。

近年、それぞれの自治体が抱える課題は、特定の団体あるいは限られた組織のレベルで進められる範疇を超えてきている。自治体として、その地域のあらゆる力を結集し、課題の解決にあたらなければその解決は困難なものになっている。だからこそ、地域課題の解決に向けた好事例を知り、その方策に学ぶ機会が必要となる。

本会議に参加している市町村の長の方々は、地域の課題に正面から向き合い、地域の特色を生かし、地域の力を集めて解決に向けた努力をしている。こうした取り組みを知るとは、参加した他自治体にとって大きな示唆となると考える。また、教育委員会という立場で考えることによって、自治体が持続可能な未来社会を創るための施策を進めるうえで、教育が果たすべき役割も見えてくる。

第 1 日目に行われた開会行事では、文部科学省、環境省、総務省、内閣府の関係者から、あいさつとともに、各省の取り組みの概要を伝えていただいた。この時間においては、短い時間ではあったが、国が進めている施策について知ることができた。このように 4 省庁からのお話が聞けるだけでも有意義なことであった。

座談会では、本市教育委員会の小山淳教育長も登壇し、教育の立場から、SDGs の達成に貢献する人材の育成や教育と地域のあり方を「気仙沼 ESD」として参加者に伝えた。また、福岡県大牟田市教育委員会安田昌則氏から、SDGs の重点目標を学校ごとに定め、グローバル人材育成に向けた ESD 推進事業（コンソーシアム）を地域一丸となって進めている取り組みについてお話いただいた。長野県飯田市長牧野光朗氏や福井県勝山市長山岸正裕氏からは、「地域人教育」や「環境保全活動」など、地域の特色を生かした持続可能なまちを目

指した取り組みをお聞きすることができた。自治体の長、教育委員会の長が、それぞれの課題を踏まえ、地域と一体となって取り組んでいることをもとに議論することは、SDGs を施策に生かし、教育をその促進力として活用する都市の創生につながるものであるという思いを強くした。日本の様々な地域の多様な課題の解決には、人材を育成することがどれだけ重要であるかを認識することができた。2日目には、各都市のSDGs との関連を図った事業をもとに意見交換が行われ、SDGs と都市の創生の関係についても理解が深まった。

この会議へ参加する自治体が増え、より多くの関係者で情報を共有し議論していくことが、SDGs を1つの指標とした自治体の施策の中で、ESD に関連する教育の価値を高めていくことになると感じた。